

衆議院外務委員会ニュース

平成 26.11.5 第 187 回国会第 5 号

11 月 5 日（水）、第 5 回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・岸田外務大臣、平内閣府副大臣、あべ農林水産副大臣、山際経済産業副大臣、北村環境副大臣、中根外務大臣政務官、山本文部科学大臣政務官、うえの国土交通大臣政務官、原田防衛大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

東郷 哲也君（自民）

- ・本年 10 月 27 日に、エボラ出血熱に感染の疑いある男性が入国した事案があったが、こうした事案における情報開示及び危機管理の在り方をどのように考え、今後、水際対策をどのように強化していくのかについて、厚生労働省の所見を伺いたい。
- ・カナダやオーストラリアでは、エボラ出血熱の感染が広がる西アフリカ諸国（ギニア、リベリア、シエラレオネ）からの入国を、ビザ発給停止により一時的に制限しているが、こうした入国制限措置という対策についての政府の所見を伺いたい。
- ・北朝鮮の特別調査委員会との協議のための政府代表団の派遣（2014. 10. 27～30）について、具体的成果は得られたのか伺いたい。

伊藤 忠彦君（自民）

- ・日中国交正常化以前の 1954 年に中国赤十字の代表として来日し、残留日本人引揚事業を通じて、戦後の日中間交流のきっかけを創った李徳全女史に対する岸田外務大臣の認識について伺いたい。
- ・李徳全女史が中心となって尽力した残留日本人引揚事業に対して、当時の国際情勢もあり、我が国政府としての謝意を表すことが出来なかったが、戦後の日中間交流及び関係改善における大きなきっかけを創ったと考える。李徳全女史たちの功績についての岸田外務大臣の評価を伺いたい。

津村 啓介君（民主）

- ・政府は北極海航路の利用が我が国の海運業に与える影響をどのように分析しているか、また、今後の北極海航路の利活用に向けて政府としてどのような取組をしているのか。
- ・北極に対する取組について、各省はそれぞれの立場で役割を果たしていると思うが、政府全体として現時点でど

のような戦略を立てているのか。

- ・北極に対する取組を次期科学技術基本計画の中に位置付けるべきであると思うが、このことについて政府の見解を伺いたい。

小熊 慎司君（維新）

- ・ODA大綱の見直しにおいて、名称を「政府開発援助大綱」から「開発協力大綱」に変えようとしているが、この狙いは何か。
- ・新たなODA大綱の中では、開発と地球環境の両立を図る持続可能な開発という視点を強調すべきであると思うが、このことについてどう思うか。
- ・現状では一般の国民にはODAは国の戦略として行っていることを理解してもらう必要があるが、ODAについてどのような広報活動をしているのか。

三宅 博君（次世代）

- ・歴代の内閣総理大臣、外務大臣、拉致問題担当大臣は所信表明等の中で、北朝鮮との関係について「不幸な過去」を清算する旨述べてきているが、この「不幸な過去」とは何を意味するのか。
- ・我が国による過去の植民地支配においては、朝鮮半島の発展に貢献した側面もあったと考えられるが、岸田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・北朝鮮は日朝平壤宣言以降幾度も核実験やミサイル発射を繰り返すなど、同宣言をまったく遵守していないと考えるが、岸田外務大臣の所見を伺いたい。

笠井 亮君（共産）

- ・辺野古の新基地建設事業に関し、同基地に駐留する米海兵隊の人員や、物資の輸送を実施するため配備される船舶について、日米両政府間でどのような議論がなされているのか。
- ・辺野古の新基地に恒常的な軍港を建設することはないと

政府は主張しているが、一時的、臨時的でも高速輸送艦（HSV）の配備を行わないということか。

- ・政府はHSVの辺野古新基地における配備、使用の問題について直ちに米軍に事実関係を確認すべきではないか。

鈴木克昌君（生活）

- ・外務大臣談話「ウクライナ情勢をめぐる対露追加措置について」（2014. 9. 25）で述べられている制裁措置の解除は、欧米諸国と歩調を合わせることになるのか、または

我が国独自の解除もあり得るのか。

- ・小笠原諸島周辺海域における中国のサンゴ密漁船問題に対してどのような対策をとるつもりなのか、岸田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・中国側もサンゴ密漁について重大性は認識している旨表明しており、日中両当局が連携して対策にあたることが日中関係の改善にも資する良い機会となるのではないか。

2 原子力損害の補完的な補償に関する条約の締結について承認を求めるの件（条約第2号）

- ・岸田外務大臣から提案理由の説明を聴取しました。